

長井市 最上川上流域における長井の町場景観

最上川上流域にある長井市の宮・小出地区は、江戸時代に最上川舟運の船着場が設置された地区であり、米沢藩の青芋蔵、上米蔵などが置かれ、物資の集散地・商業地として栄えました。往時を継承する商家群、蔵、地割、水路などに最上川舟運の流通・往来に由来する町場景観が見られます。

【重要文化的景観(平成30年2月選定・文化庁)】

白鷹町 歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」

白鷹町が生産日本一を誇る紅花。その生産者は、最上川の肥沃な土壌と朝霧が出るなどの気象条件を活かして、異なる作物との輪作や有機質資材の施用のために紅花を栽培し、さらに収穫した花を染色用の素材となる「紅餅」に加工する技術を伝承してきました。この「生産から加工まで」の一貫したシステムは、室町時代末期以来約450年の歴史と伝統を有しており、世界的にも非常に珍しい6次産業化の先駆けとなるものです。

【日本農業遺産(平成31年2月認定・農林水産省)】

【日本遺産(令和元年5月追加認定・文化庁)】

小国町 飯豊町

いにしへの敷石道「越後米沢街道・十三峠」

山形県置賜地域と新潟県下越地域を結ぶ約70kmのこの旧街道は、明治17年に現在の国道113号(小国新道)が完成するまでの約360年もの間、物流のために使用され、沿線の中山間地に大小13の峠があることから「十三峠」と呼ばれるようになりました。そのなかでも、いにしへの往来を偲ばせる黒沢峠(小国町)の敷石道は有名で、地元の保存会により整備・保存されています。また、最大の難所の宇津峠(飯豊町・小国町)には、そのことを物語る史跡が残されています。明治11年には、イギリスの女性旅行作家イザベラ・バードが旅しており、その記録が「日本奥地紀行」として残されています。

【日本風景街道(平成20年12月登録・国土交通省)】

番号	名称	標高	距離
1	諏訪峠	290m	1,900m
2	宇津峠	491m	4,700m
3	大久保峠	370m	1,000m
4	オノ頭峠	316m	350m
5	桜峠	435m	6,300m
6	黒沢峠	426m	2,600m
7	貝淵峠	175m	270m
8	高鼻峠	170m	1,800m
9	朴ノ木峠	398m	4,600m
10	萱野峠	278m	3,700m
11	大里峠	487m	4,600m
12	櫻峠	187m	1,900m
13	鷹巣峠	155m	1,960m

詳細は「越後米沢街道・十三峠交流会」のホームページをご覧ください
(<http://mount13.web.fc2.com/>)



- 凡例
- JR山形新幹線
 - JR在来線
 - 山形鉄道フラワー長井線
 - 高速道路
 - 国道
 - ▲ やまがた百名山
 - A 菓子店舗
 - ▲ 越後米沢街道十三峠

日本一長い
無料トンネルを通して
山形県・置賜へ

